

質問 道路舗装補修工事五ヵ年計画（第4期計画）で位置付けられながら未対応・未整備となり、第5期計画で対象外である事後保全型の対象となった路線について舗装補修工事の考え方、見解について伺う。

答弁 第4期の計画で計画期間内に補修することが望ましいとされていた計画保全型の道路の一部が事後保全型の道路に移行しているが、舗装補修が中止となったわけではなく、令和7年度では、計画保全型から事後保全型に移行した路線の舗装補修を実施している。また、令和8年度でも事後保全型に移行した路線の舗装補修を予定している。

質問 こども計画を策定するに当たり、どのようなアンケート調査を行い、どのような回答があったのかを伺う。

答弁 アンケート、オンライン（くるりっど）、市民まつりでの対面の3手法により、意見聴取を実施した。小学生は日常生活の悩みや遊び場の要望、中学生は学校生活への不満や将来不安、高校生は進学・まちづくりへの提案、若者世代は経済的不安や市の利便性などへの意見が中心であった。

質問 学校生活アンケート事業委託におけるアンケート実施について、不登校の未然防止における活用について伺う。

答弁 学校生活アンケート hyperQU から得られるデータを活用することで、早期発見、早期対応、個別支援の充実、学級環境の改善、さらに教職員間の連携強化などにおいて、不登校の未然防止に活用できるよう努力している。今後も、本調査で児童・生徒の心理状態を数値化し、見過ごしがちなサインを早期に察知することで、一人一人の課題に応じた適切な支援計画を検討する。

質問 公共施設のスリム化の取り組みの中で、公共施設の建設費用が、基礎調査報告書からどのような金額になるのか伺う。

答弁 総合管理計画の単価で算出したものよりも、物価上昇等の影響を加味した単価で算出したほうが86.6%費用が高くなるとされており、具体的には年19.8億円が年37億円になるシミュレーション結果となっているので、単純に50年間という期間で捉え直せば、総合管理計画の単価で約990億円であったものが1,850億円となる。本年9月を目途に取りまとめ予定の（仮称）公共施設のスリム化に向けた基本構想（素案）では、50年先を見据えた公共施設の将来像と、それに基づく将来更新費用についても示すことができるように取り組む。

質問 東村山都市計画道路3・4・13号線及び3・4・21号線の第3工区の事業化はいつになるか伺う。

答弁 第3工区（小山区間）は、用地測量などを進めてきており、また、北側の接続先である新座市と継続的に新座市域内の整備について調整を進めてきた。その調整の中で、新座市による新座市域内の整備などの議論は着実に深まっており、調整の最終段階に差しかかっているものと認識している。引き続き、早期事業化に向けて鋭意働きかけなどに努めていく。

令和8年度予算の主な継続・拡大事業

事業名	予算額
公共施設スリム化に向けた基礎調査	2,195万6千円
東部地域センター空調機更新工事	8,746万4千円
東村山都市計画道路3・4・13号線及び3・4・21号線整備事業	8億6,488万4千円
道路舗装補修工事等	2億2,877万円
未就園児の多様な他者との関わりの方の創出補助	3億8,832万7千円
こども計画の策定	515万円
小山小学校増改築工事	2億9,225万6千円
学校生活アンケート事業	104万1千円
自閉症・情緒障害特別支援学級の開設（第七小学校）	1億3,568万9千円
ナラ枯れ対策のための樹木伐採	5,000万円

市議会立憲民主

相談しやすい市役所へDX推進と人材活用を

市長2期目最初の予算審査となった。1期目は「あんなにして暮らせるまち」に向け、3つの重点事項の取り組みを着実に進めた。2期目は歳入構造の変革を

加えた4つの柱を中心に、持続可能なまちづくりに取り組みが表明された。新たな行政需要も増えている中、将来世代への投資や支援が不可欠であるとすれば、事業の取捨選択や公共施設の財源あるいは規模見直し等は避けて通れない。限られた資源で持続可能な行政サービスを提供するためには、デジタル技術を活用し、業務改善の取り組みを行うことは必要不可欠。DX推進の取り組みを積み重ね、オンラインとリアル間の強化を図りながら「お手間を取らせない市役所」の実現を目指すことで、高度な業務へ人的資源をシフトする人材活用の推進を要望し、予算案に賛成する。

東久留米維新の会

「新しい東久留米」に向けた挑戦に期待

富田市長は所信表明において「新しい東久留米」に向けた「東久留米駅からはじまる『新しい』まちづくり」「スマートで市民に優しい『新しい』市役所へ」

「新しい」学校で子どもたちの未来を拓く」「環境・経済の好循環」「新しい」視点で持続可能なまちの4つの挑戦を示した。道のりは平たんではないが、厳しい財政状況と限られた人材で新しい東久留米に向かうためには、さらなる行財政改革が必要。挑戦し続けなければ何も手に入らない。新しい方向へかじを切り、継続しようとする姿勢が予算に表れていると考える。以上のことから、本予算による市民ニーズの把握とサービスの質と内容の向上を期待し、一般会計予算案に賛成する。また、3特別会計予算案および下水道事業会計予算案は、意見を付すことなく賛成する。

国民民主党

負担増なく満足感ある市政へデジタルを活用

市が市民負担を今以上に重くせずに市民が求めるサービスを提供し、いかに満足感を高めるかは、市民と行政の連携が課題である。この課題に対する有効な

方策として、市のデジタルを活用した意見聴取を評価する。市民ニーズを可能な限り低コストで調査し、事業の質と内容を調査結果に対応したものとするためのデジタルの活用は、今後ますます求められると考える。広くデジタル等を活用して市民ニーズを調査し、政策にできるだけ反映させようとする。税金の削減は、低所得者へ配慮がなされたことに安心した。誰にとっても住みやすい東久留米市が実現し続けるよう願う。一般会計予算案および国民健康保険特別会計予算案に賛成する。また、2特別会計予算案および下水道事業会計予算案は、意見を付すことなく賛成する。

れいわ新選組東久留米

「令和8年度予算案」に賛成します

予算編成における基本方針に「基本構想に掲げるまちの将来像『みんないきいき活力あふれる湧水のまち東久留米』の実現に向けて、各施策を着実に推進するこ

と」とある。公約にも「水と緑の継承」が掲げられていた。水と緑は、市民にとって誇れるものであり、宝である。引き続き水と緑が守られていくことを願う。国民健康保険特別会計では、独立採算の原則を踏まえ、法定外繰り入れを可能な限り抑制すること。財政の透明化と安定化につ